

夏休み教員推薦図書一覧

	書名	著者・編者	発行所	推薦教員	推薦コメント
1	重力とは何か アインシュタインから超弦理論へ、宇宙の謎に迫る	大栗博司	幻冬舎新書	加藤清考先生(一般)	皆さんは2年生の物理の授業で、重力に関してNewtonが発見した万有引力の法則を学びますが、話はそれで終わりではありません。重力を深く考えていくと、質量をもつ物体の周りの空間がゆがむこと、我々の住む宇宙は3次元空間ではなく9次元空間かもしれないことなどが分かってきます。著者の大栗さんは、現在でも一線級の研究者でありながら、一般向けの分かりやすい解説本を書くことでも有名です。この本を読んで、ぜひ重力にまつわる不思議な体験をしてください。
2	クォーク 第2版 素粒子物理はどこまで進んできたか	南部陽一郎	講談社ブルーバックス	加藤清考先生(一般)	2008年にノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏が、対称性の破れやクォークのカラーなど自らの発見を含む素粒子物理の発展を一般向けに解説した貴重な1冊です。
3	永遠の0	百田尚樹	講談社文庫	加藤清考先生(一般)	文庫本で608ページもある本ですが、私自身短期間に一気に読み切りました。時間を忘れて、そして涙を流しながら読んだ本に久々に出会いました。歴史の勉強にもなると思います。まだ読んでいない人は、是非読んでみてください。
4	深海の使者	吉村昭	文春文庫	藤井敬士先生(機械工学)	ドイツでは有名ですが、日本ではあまり知られていない実話を基にした小説です。第2次大戦中、潜水艦で日本からドイツを往復する作戦が5回ほど実施されました。インド洋を横断し喜望峰から大西洋を縦断します。この本も面白いのですが、史実を調べると他にも面白いことが出てくると思います。
5	ソロモンの指輪	コンラート・ローレンツ	ハヤカワ文庫NF	藤井敬士先生(機械工学)	「動物行動学入門」の副題が付いています。動物を飼おうかな?と思ったら、その前に読んだほうが良い本ではないかと思います。動物の気持ちがどうなのか 良く分かります。
6	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	柴田洋一先生(一般)	「ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばん大切なことは、目に見えない。」少々疲れた人の心に水がしみこんでいくような言葉に出会えるでしょう。実は一番慰められたのは、私自身かも知れません。
7	脳が冴える15の習慣—記憶・集中・思考力を高める	築山節	生活人新書	三原大介先生(一般)	この本に書かれているような記憶・集中・思考力を高める為に有効な15の生活習慣を意識的に身に付けることで「うつ」の予防となるばかりか、豊かな生活を楽しむことができる…。冴えない脳の状態を改善させ、脳の原則に基づいて、非常に分かりやすく具体的に解説している。スラスラ読めます。明日も早起きしたくなると思います。
8	キヨミズ准教授の法学入門	木村草太	星海社新書	酒入陽子先生(一般)	「法は言葉にすぎないのに、人間を本当に強く拘束している社会のインフラ(本書より)」。それを知らないのって問題なんじゃない? 新進気鋭の法学者による、読みやすい法学入門書です。

夏休み教員推薦図書一覧

9	揺らぐ世界〈中学生からの大学講座4〉』	立花隆ほか	ちくまプリマー新書 229	酒入陽子先生(一般)	「中学生からの大学講座」とありますが中学生向けの本ではありません。グローバル化が進み、多くの問題を抱えて揺らぐ世界。各地で起こる紛争・格差・環境問題…に我々は無関心でいいのでしょうか。世界を知り、世界を読み解くための入門書。
10	アジアのなかの戦国大名 西国の群雄と経営戦略	鹿毛敏夫	吉川弘文館(歴史文化ライブラリー)	酒入陽子先生(一般)	戦国大名は、みな天下統一を目指したのか？戦国乱世をグローバルに生きた西国の戦国大名たち。彼らの国際感覚・領国経営から、戦国時代を再評価した本。戦国時代は今以上にグローバルだった！？
11	丹下健三 戦後日本の構想者	豊川斎赫	岩波新書	永峰麻衣子先生(建築)	本書は、歴史上の建築家・丹下へのオマージュではない。前半は、戦争を経験した丹下が、戦後国内外の政治家、技術者、芸術家等との幅広い交流を通し、マクロで多角的な視座で、日本各地に建築・都市計画を実現し、都市システムに関する調査研究をまとめた史実を分かり易く伝えている。後半は、焼け野原から復活した高度成長期の日本技術を海外に輸出する世界のTANGE丹下によるアジア・中東での国家的プロジェクト、1986年の東京都庁舎コンペ等を述懐する。そして最後に筆者は、現在世界的に活躍する丹下の弟子たちの建築を明哲に考察し、現代都市建築が、戦後100年、21世紀に描く世界はどうあるべきなのか、と問っている。オバマ氏が、広島平和記念公園(設計:丹下健三)に訪れた歴史的な年である現在、学科を問わず、今後国際的に活躍されるみなさんにぜひ読んでいただきたい書籍です。
12	数学の言葉で世界を見たら父から娘に贈る数学	大栗博司	幻冬舎	岡田崇先生(一般)	皆さん是非読んでみてください。皆さんの年頃の方々に語りかけるような感じで、書いてあります。色々な不思議や考え方が、数学を通して書いてあります。
13	のうだま やる気のコト	上大岡トメ、池谷祐二	幻冬舎	小林幸夫先生(電電)	始業式の時に紹介した本です。気楽に、短時間で読めますので、やる気のない時にでも読んでみて下さい。
14	竜馬がゆく I-VIII	司馬遼太郎	文春文庫	大久保恵校長先生	江戸末期、自ら設立した亀山社中のビジネスで頭角を現し、困難とされた薩長連合を果たし、大政奉還の大事業を成し遂げた坂本龍馬の31年の生涯を司馬遼太郎の日本人への深い愛に根差した歴史観で綴られ、大きな勇気を与えてくれる大作です。
15	論理が伝わる世界標準の「書く技術」-「パラグラフィティング」入門	倉島保美	講談社ブルーバックス	柴田美由紀先生(一般)	書きたい内容をすっきり整理して、見た目にも分かりやすく、しかもすらすらと書くことができる…そんな必殺技が満載された一冊。どう書けばいいか迷うとき、指針を与えてくれます。日々のレポート作成に追われる高専生必読の書。
16	五重塔	幸田露伴	岩波文庫	山崎明先生(一般)	腕は立つも世渡りが下手で「のっそり」と蔑まれる大工の十兵衛が、谷中感応寺の五重塔建立に名乗りを挙げ、義理人情も自らの身も顧みず、一心に竣工を目指す話。難解な文章に見えるが、簡単に読むことができます。

夏休み教員推薦図書一覧

17	田端文士村	近藤富枝	中公文庫	田中仁(一般)	明治34(1901)年から昭和4(1929)年にかけてのおよそ30年間、東京・田端には数多くの文化人が軒を連ねました。陶芸の板谷波山、金工の香取秀真、画家の小杉放庵、詩人の室生犀星、萩原朔太郎など―。彼らと同様に田端に住んだ小説家・芥川龍之介を中心に同時代の文化人たちの動向を丹念に描いた1冊です。
----	-------	------	------	---------	---